

第24回平和祈念コンサート 講演会

やまもとひろぞう
【山本博三氏】 ただいま紹介されました山本です。

生まれたところは台東区浅草橋ですけれども、今は柳橋に変わりました。久月さんという人形の有名なお店があるところです。あの辺りの80軒ばかりが戦後まで残りました。

そこに29歳までおり、結婚して練馬区に参りました。ですから、練馬区に住んで、もう五、六十年になります。

今日は戦争中の空襲の話を、ということで参りました。3月10日の空襲が有名ですが、私がいたところでは、それこそ連日連夜のごとく、空襲があり、毎日、警戒警報が鳴っていました。

実際に初めて空襲にあったのは、昭和17年4月18日です。航空母艦からB25が5機飛んで来たようです。

小学校6年生になったばかりでしたが、そのときは東京上空をあっという間に通り過ぎていきました。神田駅のホーム下が更地になっていたのを兄と二人で見、「ああ、ここに落ちたんだ」と話したのを覚えています。

それと、早稲田の鶴巻町の交差点のところには、大きな穴が出来ていたそうです。これは早稲田にいた親戚のお兄さんがうちに来て知らせてくれました。

このときは、B25が飛び去ってから空襲警報のサイレンを鳴らしたようです。いつも、あっという間に中国の方に飛行機が飛んでいってしまうのですけれども、これが最初の空襲でした。

この後は、昭和19年11月24日から、25日、27日、29日と約2日に一度、中島製作所の方で空襲があり、空襲のたびに学校が中止になりました。「みんな帰りな

さい」ということになるのです。増上寺に学校がありましたが、ちょうど日比谷公園あたりで、飛行機が府中方面に向かっていったのを覚えています。

私が住んでいる所に初めて焼夷弾が落ちたのは、昭和19年12月30日でした。

我が家の裏の家がちょうど疎開しておりまして、誰もいなかったので、やむなくガラス戸を壊して火を消しました。そうしないと、どこに燃え移るかわからないのです。

また別の日には、地域にあった銭湯に焼夷弾が落ちました。天井で焼夷弾が止まっていたのを、トビロで下に落として火を消したようで、少し焦げていました。

この間は、毎日が空襲警報、警戒警報が連続でした。

昭和20年2月25日のことです。この日は雪が降っていて雲がかかっていたので、敵機がどこにいるか分からず、焼夷弾がどこに落ちたのかも分かりませんでした。ただ焼夷弾が空気を切る音がするだけですから、耳と目を指で塞いで、ただただ怖い思いをしたのを覚えています。

この日は、私の家から少し離れたところにあった福井町通りの向こう側と、江戸通りの向こう側が焼けました。神田の美土代町に友達がいましたが、その友達のところも焼けてしまったらしいです。

次にあった大きな空襲は3月9日、10日の大空襲です。

このときは、まず1機で来て、大月上空をぐるぐる、ぐるぐると旋回して、「あ、こっちへ来るのかな。浜松方面に行くのかな」と気をもんでいるうちに、いきなりドカン、ドカンと焼夷弾が落ちてきてから、空襲警報が鳴り、千葉県の高九十九里から数十機がっぺんに来ました。千葉の人は「何でB29が通り過ぎていくのかな」と思っているうちに、東京の空が赤く燃えてきたそうです。

このころ東京ではB29が2,000メートルぐらいの高さにまで降りてきていました。約80センチから1メートルぐらいの大きさに見える状態です。今思うと秋の

赤とんぼのようで、何十機も空に舞っていました。こうなると、もう高射砲では撃ち落とせません。撃ち落としたりとしても下に家があれば、それが燃えてしまうから、高射砲を撃つことができないのです。

このときは、父と二人で焼け跡にいましたが、家が焼けてしまうと思い、家がなくなると住むところがないと、暗たんたる思いでいました。

隣に吉野さんという方が住んでいまして、その方から「消防車が1台入ってきたので、焼け残るかもしれないから消火を手伝いましょう」と言われました。隣のうちの屋根に火がつくといけないので、そこの消火を手伝って火を消し止めました。我が家の裏の道路まで消防車が回り、裏の家を水の勢いで向こう側に倒すことで火を消していきましたが、途中で消防車のガソリンがなくなり、もう帰るとい話になりました。

そうしましたら、私の家の前の奥さんが「ガソリンならうちにありますから」と、一斗缶を二つ持ってきて、「どうせ焼けてしまうなら、これを使ってください」と差し出してくれたのです。

私はその時いませんでしたので、後で父親からその話を聞かされました。

あの時代にそれだけのガソリンを持っていた家があるなんて奇跡に近く、消防士さんも、「これがあるならやりましょう」ということで、5時から6時ごろには、全部の塀を裏通りから向こう側に倒すことができました。全部倒してしまえば、もう焼けてくるおそれがなくなりますから、おかげで浅草橋の向こう側の80軒は、戦後まで焼け残りました。

この日は、そのあと向島から来ていた職人さんがうちに寄ってくれました。午前2時に家を出て、着いたのが6時か7時ごろでした。向島ですと橋を渡らなければならないのですが、その橋が逃げる人々でなかなか進むことができず、ものすごく混んでしまっていて渡れなかったらしいのです。それで、そのころには、

うちが焼け残るといのがわかっていたので、「焼けないでよかったね」と言われて大変うれしかったです。

また、どんどん焼きという、お好み焼きとか焼きそばを焼いて荷車で売っているおじさんも寄ってくれました。当時、西側からの風が凄く強くて、奥さんが布団を抱えて一緒に歩いていたのですけれども、その奥さんが布団を放したのかどうかかわからないのですけれども、体の後ろに回ってしまって、風に押されて、そのまま火の中に入って行ってしまったのです。

旦那さんは、ご自分の目の前でそのようなことが起き、悔やんでも悔やみ切れず、これから田舎に帰るという話でした。

あの方は、その後の一生をどうしていたか、以後、会うことはないのかわかりませんが、今の平和な時代がいつまでも続くことを願っています。

この3月10日の7時から8時ごろ、「これから三筋町に行くけれども、博三さんも行くかい」と言われ、連れて行ってもらったのです。

そこで在郷軍人のおじさんが、焼けたタイヤがないリアカーに、マネキンみたいなものを何体も何体も積んでいました。それで、一緒にいた人に聞きましたら、「あれは焼け死んだ人だよ」と言われて、びっくりしました。まるでマネキン人形かと思うぐらい、男か女かも分からないのです。というのも、髪の毛は焼けてしまっているし、手も足も指も無くなってしまっている。だから、男性が焼けたのか女性が焼けたのかが分からないのです。それを何体も何体も積んで出ているところをぼうっとして見ていました。思い出だけでも手を合わせたくありません。

3月10日が過ぎても、連日、空襲は続きました。

3月10日に三筋町で焼け出された叔母さんが、横山町というところに住んでいたときの事です。

5月25日の空襲のとき、叔母さんは逃げ込もうと思って明治座に行ったのですが、人が沢山いて入ることができなかったので、うちへ戻ってきました。

もし、そのときに明治座に入っていたら、叔母さんは、そこで蒸し焼きになっていたでしょう。明治座の扉は電気で開けるのですが、明治座の周りが焼けてしまって、電気が来なくなり、扉を開けることができなくなって、中にいた全員が蒸し焼きになってしまったそうです。叔母さんは、その後、練馬区に越してきて一生を終えられました。また、この日は、深川も焼夷弾でやられています。

5月27日には横浜に空襲がありましたが、このときの燃え方が大変でした。1週間や2週間ではなく1か月近く燃えていたようです。多分、重油が燃えていたのではないかと思います。横浜というのは軍艦がありますから、その油が燃えていたのではないかと思います。東京湾の空が真っ黒な煙で覆われて、漆黒になっていました。何で見えるかという、うちの周りは全部焼けてしまって、電車が通っているガードだけが残っていたからです。その先も焼けてしまっているのですから、東京湾の海が見えるぐらいの感じになっていました。ですから、よく分かりました。

それで、その後、ちょうど中学3年になると、みんな学徒動員で引っ張られるのです。4月からは学徒動員で、蒲田の工場に働きに行きました。

この会社は、電波探知機をつくる会社で、軍事工場でした。そのために、蒲田の駅の東口一帯を、軍の命令だと思えるのですけれども、そこにあった家々を全部壊せということになりましたが、結局は、あの辺りの会社も全部燃えてしまいました。

このころから、艦載機が飛んでくるようになり、会社にいる方が、電車のそばで機銃掃射を受け怖い思いをしたと話してくれました。あれが電車に撃ち込まれていたら大変なことになっていたでしょう。

そのころはグラマンがよく飛んで来て、日本の零戦と空中戦をしていたのを蒲田の駅のホームから見たことがあります。撃ち落とされたかどうかはわかりませんが、けれども。

その次に行ったのが陸王内燃機という会社で、そこで終戦になりました。陸王内燃機というのはオートバイをつくっている会社です。

お話をしてきたように、私は小学校、中学校のころに空襲を経験しました。あの頃を思い出すと今でも怖い気持ちになります。

今では、もう戦争を経験した人も少なくなり、戦争が遠い昔のことのようになりました。

私の話を聞いて、戦争をしてはいけない、今の平和がとても貴重でかけがえのないものだということを感じてもらえればうれしいです。

平和なときがいつまでも続くことを願いたいと思います。

これで私の話を終わりたいと思います。今日はありがとうございました。

(拍手)

以上